

## 1 学校教育目標

- つよく 心身ともに健康で勤労と責任を重んずる子供
- かしこく 自主的・意欲的に学習し創造性豊かな子供
- あたたかく 人間性豊かで人権を尊重する子供

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童一人一人の学力向上を実現する学校 ○当たり前のことを当たり前でできる学校 ○地域のために貢献できる学校
○児童・生徒像	○基礎・基本をしっかり身に付け 自らめあてをもって 意欲的に学習に取り組む児童 ○自分に自信をもち 情操の豊かな児童 ○心身ともに健康で のびのびと活動する児童 ○きまりを守り 友達を大切にする児童
○教師像	○信頼し合い 認め合い 協力し合って指導に取り組む教師 ○教師力向上のために 絶え間なく努力する教師 ○児童一人一人を大切にし 確かな人権感覚を身に付けた教師 ○保護者や地域のニーズに敏感に対応し 三者連携のために努力を惜しまない教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上

- 区学力調査での通過率は、国語 91%、算数 89%で目標を上回った。2月の定着度確認テストでは、国語 84%、算数 79%で昨年度2月と同様の傾向であり、この段階では、まだ目標値には至っていない。新学年に向け、一人一人の未定着部分についてフォローする。
- ノート指導の徹底を図ることで、思考力・表現力の向上に繋げることができた。「話して書いて伝え合う授業」を目指しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ペア・グループなど多様な話し合いの機会は十分に確保することができなかった。
- タブレットの導入により、アプリの活用で意欲的にグループでの検討に参加する姿が見られた。また、キュビナの活用により、基本的事項の定着に取り組ませることができた。
- ◆「言葉で考える力」、「言葉で表現する力」の向上のために、語彙の拡張を図るための指導方法の開発や家庭学習の見直しを図っていく。また、ICTの活用について一層の工夫を図る。

### 豊かな心・健やかな体の育成

- 「学校 2020 レガシー」にかかわる、地域学習や環境学習は、予定通りに行うことができた。
  - これまでアワード校として推進してきた「パラスポーツ体験による障がい者理解」は、スポーツ推進委員の協力により、1・2年生ボッチャ、3・4年生卓球バレー、5・6年生ゴールボールを実施することができた。
  - 毎月の運動月間としてテーマを設定し、休み時間や本町タイムにおける体育的活動、校内マラソン大会なども取り入れて運動の機会を増やした。
  - 9月に全学年で3年ぶりに国際理解教室を実施し、異文化への興味関心を高め、国際協力への理解を深めることができた。
  - 各学年において食育・保健指導を実施し、児童の健康に関する意識が高まった。
  - ◆コロナ渦で野外での活動や社会体育の制限がある中で、運動機会の確保が急務である。スポーツテストで平均値を下回った種目について、当該の力を伸ばすための手立てを講じていく必要がある。意識面で運動が嫌い・苦手とする児童を減らすための取組を推進する。
- 教員の授業力の向上

- 主幹・主任教諭による教育技術研修会の実施と教科指導専門員の定期指導により、若手教員の基礎指導力を向上させることができた。
  - 小中連携研究では、タブレットを活用した授業づくりに取り組むことで、タブレットやアプリケーションの使用に習熟するとともに、ICT活用授業の様々な方法について研修を深めることができた。
  - 基礎体力を高めるための指導について講師を招へいした授業研究を行い、楽しみながら体力を向上させる場づくりや運動内容について検討した。
  - ◆「主体的で対話的な深い学び」や「授業におけるICTの活用方策」について、さらに研修を深めるとともに、発達段階に応じた指導方法の検討・工夫・改善に一層努める。
- 安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実
- 教育相談コーディネーターと特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや特別支援教室アドバイザー、スクールソーシャルワーカーの助言を受け、全校体制での取組が充実してきている。
  - 年3回の研修会を通して、配慮を要する児童への各教員の対応力が向上した。また、個別支援委員会の定期的な実施により、組織的支援のあり方について検討を深めることができた。
  - ◆教育相談や特別支援教育に関する理解の推進に努めてきたが、今後も家庭と一層の連携を図っていくために、情報交換の場や方法をさらに工夫・改善していく必要がある。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上	○	○	○	○	○
2	豊かな心・健やかな体の育成		○	○	○	○
3	教員の授業力の向上	○	○	○	○	○
4	安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実	○	○	○	○	○

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
一人一人の課題を把握し、補習時間や家庭学習の充実に努め、児童の「基礎学力」の確実な定着と「思考力・判断力・表現力」の向上を図る。		通過率 85%以上							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 (本町タイム)	国語・算数	週2回	【指導体制】担任 【内容】・AIドリルの活用による国語・算数の基礎的な知識・技能の習得 ・詩や百人一首の暗誦	定着度確認テスト 暗誦検定 校内百人一首大会の実施	確認テストで正答率80%。暗誦検定で80%の児童が合格。校内百人一首大会1回			

2 継続	自学ノート	3年生以上 (国語・算数、その他の教科)	年間	【指導体制】担任 【方法】・国語、算数のドリルやノートの他に「自学ノート」を統一し、児童が自分で課題を決めて学習に取り組む。	提出状況調査	週1回以上			
3 継続	読書活動	全教科	年間	【指導体制】全教職員 【内容】・年4回の読書週間、調べ学習や新聞活用の推進	学校図書館基本計画における目標	目標ごとに80%以上			
4 継続	言葉を磨く 芭蕉タイム	国語・学級活動	年間	【指導体制】担任 【方法】・年2回以上学級句会、毎月1句俳句の常設掲示、校内作品コンクールの実施	句会回数 掲示句数 校内作品コンクールの実施	句会…2回以上 句数…12句 校内作品コンクール…1回			
5 新規	パワーアップ教室	国語・算数	夏休み 期間中 学習教室・水泳教室がある日	【指導体制】校長・副校長・算数少人数・専科教諭 【方法】・少人数または個別の指導を行い、つまづきをベーシックドリル等で確認し、解けなかった問題の直しや補充問題を行う。AIドリルを活用して習熟を図る。	確認テスト	確認テストで区の目標値を達成する。			

### 重点的な取組事項－2

豊かな心・健やかな体の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体験活動や特別活動の工夫・改善・充実により豊かな心の育成を図るとともに、「学校2020レガシー」の推進により、体力向上にかかわる取組やSDGsを意識した教育活動の充実を図る。	○内部評価における肯定的評価が90%を上回る。			

### B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育的活動等の工夫・改善に取り組む、児童一人一人が運動に意欲的に取り組むようにする。	○児童アンケート調査で、運動に意欲的に取り組むということに関し肯定的な回答が90%を上回る。	○姿勢タイムや授業での体づくり運動の日常化を図る。 ○体育集会、体力パワーアップタイム、休み時間や放課後の遊び等の充実を図る。 ○マイベストプログラムにより目標をもった体力向上の取組に挑戦させる。			

「学校 2020 レガシー」の推進により、体力向上にかかわる取り組みや SDGs を意識した教育活動の充実を図る。	○「学校 2020 レガシー」の重点取り組み「難聴理解教育」「地域学習」「本町チャレンジスポーツ」について肯定的な回答が 90%を上回る。	○「学校 2020 レガシー」全体計画に基づき、指導方法・養う力を明確にした授業を実践する。 ○発達段階に応じた障がい者理解、地域理解、国際理解を広げ、深める体験学習の充実を図る。			
食育や保健指導の充実を図る。	○各学年で、養護教諭や栄養士が、5回以上健康に関する指導を行う。	○養護教諭・栄養士が中心になり、食育や健康教育を実施する。 ○SOS 教育やがん教育など、新たな課題に関する実践を充実させる。			

<b>重点的な取組事項－3</b>		教員の授業力の向上			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
○J T等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○内部評価における肯定的な評価が 90%を上回る。				
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに向けての工夫・改善に取り組む。	○教科指導に関する校内研究年間 6 回 ○教育技術に関する OJT 研修年間 10 回 ○若手教員に対して、毎月教科指導専門員による授業指導を実施	○全教科・領域での言語活動の充実を図る。 ○主幹・主任教諭による教育技術研修会の実施と教科指導専門員の定期指導により、若手教員の基礎指導力を育てる。			
I C Tを活用した分かりやすい授業づくりについて、検討・実践する。	○週 3 回以上、教員がタブレットを使用 ○週 3 回以上、児童がタブレットを使用 ○半期に 1 回以上、プログラミング教育実施 ○校内研修を 6 回実施	○I C T活用リーダーを中心に、I C T支援員と連携した校内研修を実施する。 ○I C Tを活用した授業の相互参観を実施する。			

重点的な取組事項－４		安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ・不登校への迅速・的確な対応を進めるとともに、学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制の工夫、改善を進め、個別支援教育の一層の充実を図る。		○内部評価における肯定的な評価が90%を上回る。			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの根絶と不登校の早期解消に努める。	○学年末の段階でいじめの解消率を100%にする。 ○内部評価における教育相談の肯定的な評価が90%を上回る。	○年3回のアンケート調査と迅速かつ丁寧な聞き取り・継続指導の実施。 ○ハイパーQUの有効活用。 ○担任とコーディネーター、特別支援教育コーディネーター、カウンセラー、SSWの連携による不登校支援。			
学習面・行動面で配慮を要する児童への対応・体制を工夫・改善・充実させるとともに、研修を通して教員の指導力を高める。	○配慮を要する児童への対応についての研修会を年間3回実施する。	○配慮を要する児童のニーズや一人一人を伸ばす指導について研修を行い、共通認識のもと、組織的な指導が進められるようにする。 ○個別の支援は、通級指導学級教員との連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。			
個別に支援が必要な児童に対して、全教員の共通理解のもと効果的な指導が展開できるようにする。	○個別支援にかかわる情報交換を月1回以上実施する。	○担当教員・専門員・コーディネーター・カウンセラーの密接な連携により、効果的な指導方法と個別の指導機会の充実を図る。			
6 まとめ					
(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性					
(2) 保護者や地域へのメッセージ					
(3) その他（学校教育活動全般について）					

※表中の自己評価項目とまとめについては、年度末に記入します。